



多職種連携推進・研修部会

平成30年度の活動報告

【2年目の活動に向けて】

平成29年度の部会活動の振り返り

○30年度の取り組み方針

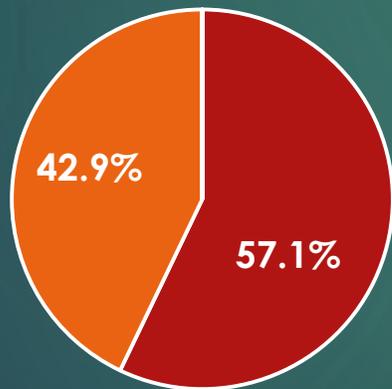
- ①29年度に養成したリーダーへアンケートを実施し、連携の実施状況を確認する
- ②アンケート結果を踏まえ、30年度の研修開催時期、研修内容を検討する
- ③リーダー養成を目的とした多職種連携研修会を開催し、新たなリーダーを30名養成する
- ④リーダー養成と併せて、広く多職種連携を図るための機会を検討する

【2年目の活動に向けて】 平成29年度の部会活動の振り返り

○平成29年度に養成したリーダーへのアンケート結果

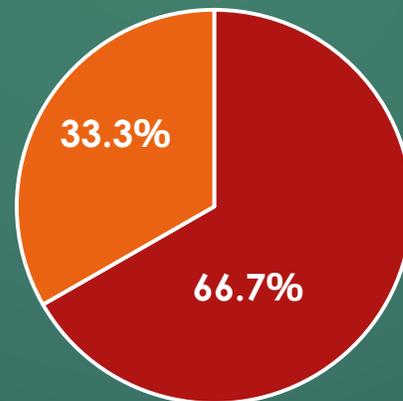
(平成30年8月 回答14名)

1. 全員対象
研修会后、各職能団体や職場で受講内容の報告を行いましたか。



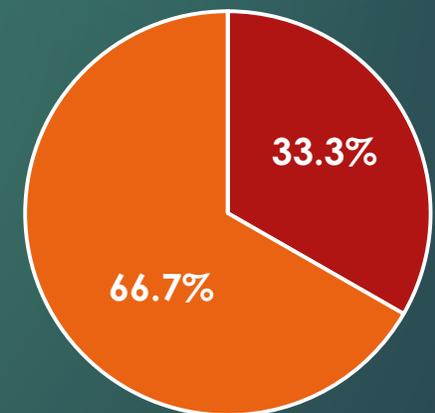
■報告した ■報告しない

2. ケアマネジャーへ
研修会后、退院前カンファレンスで地域連携連絡票を作成しましたか。



■作成した ■作成しない

3. ケアマネジャーへ
研修会后、サービス担当者会議で地域連携連絡票を使用しましたか。

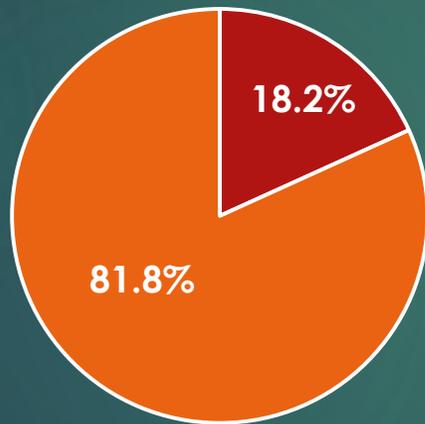


■使用した ■使用しない

【2年目の活動に向けて】 平成29年度の部会活動の振り返り

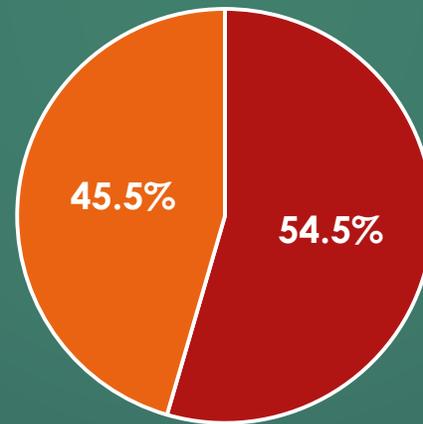
○平成29年度に養成したリーダーへのアンケート結果

4. 多職種へ
業務の中で、ケアマネジャーに地域連
携連絡票の提出を依頼することはあり
ましたか。



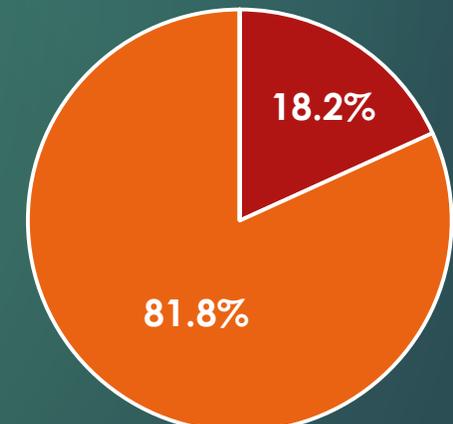
■あり ■なし

5. 多職種へ
研修会后、地域連携連絡票を使用
しましたか。



■を使用した ■使用しない

6. 多職種へ
研修会后、地域連携連絡票作成のため
に、情報提供を依頼される機会
はありましたか。



■あった ■なかった

【2年目の活動に向けて】

平成29年度の部会活動の振り返り

○平成29年度に養成したリーダーへのアンケート結果（意見・感想）

- ・地域連携連絡票の活用で利用者様の全体像が把握できた。
- ・資料が分かりやすくて良かった。
- ・ケアマネだけで作成するものだと思っていた。多職種と協働で作る考えはなかった。病院側に地域連携票の理解が広がっていることに驚いた。
- ・他の書類の作成と重なる部分もあり、事務量が増える手間は大きい。毎回の作成は困難な事も多いと感じた。

【2年目の活動に向けて】

アンケート結果から 30年度研修に活かしたこと

- ・研修会ごとに参加者へリーダーとしての役割・目的を伝える
- ・年3回の研修会日程は間隔を空け過ぎないように計画する
- ・グループワークは1グループ6名とし毎回同じ顔ぶれで編成する
- ・第1回目研修内容を「地域連携連絡票を知ること」にする
- ・地域連携連絡票は「妙高市・上越市の連携ツール」と周知する

平成30年度の部会活動 計画

○ 目 標

多職種が連携し、対象者の生活を支えるために、退院前カンファレンス、サービス担当者会議などを円滑に行うことができるようになる。

○ 活動内容

多職種リーダー30名を養成。そのために3回の研修会を開催。

地域連携連絡票の効果的な活用について意見交換会を行う。

(多職種：医師、歯科医師、薬剤師、管理栄養士、相談員、看護師、リハビリ職、介護員、介護支援専門員、福祉用具専門相談員など から30名選出する)

平成30年度の部会活動 実施

第1回 9月28日「地域連携連絡票について学ぶ」 参加者28名

(方法)

地域連携連絡票の内容・情報の構成について確認、
記載方法や活用についてグループで話し合う。

それぞれの職種により
感じたこと、視点、
必要とする情報に
違いがある。

日中活動、趣味、仕事歴、
これまでの生活歴があると
より本人を理解しやすい。

1枚に状態像を把握
するための十分な情報
が載っている。

記入は大変。関わる皆で
記入できるとより詳細、
リアルタイムな情報共有
ができる。



平成30年度の部会活動 実施

第2回 10月26日「退院前カンファレンスについて学ぶ」 参加者24名

(方法)

退院前カンファレンスの目的・意義を学ぶ。模擬カンファレンスを開催。本人家族が安心して退院できるために、地域連携連絡票の活用についてグループで話し合う。

目標に向けた多職種の取り組みや考え方を共有できる

入院前の生活状況を踏まえた上で在宅生活における注意点を説明できると本人・家族は安心して退院できる。



連携票を作る過程で連携票を各専門職が分担して作成するとケアマネの負担が減る。



平成30年度の部会活動 実施

第3回 12月7日 「在宅サービス担当者会議について学ぶ」
修了証授与

参加者25名

(方法)

サービス担当者会議の目的・意義の理解を深める。

模擬担当者会議開催。地域連携連絡票の活用について、全3回の研修会で学んだことについてグループワークで話し合う。



全体像を確認でき、情報共有の良いツールとなる。会議前の連携票の配布により時間短縮、内容の濃い話し合いができるのでは。



連携がとれる。多職種意見を活かせる。自分の関わりにつなげられる。

MCネットを活用して作成できると良い・・・

平成30年度の部会活動 実施

○ 全3回を通して学んだこと

退院前カンファレンスやサービス担当者会議の意義が分かった。

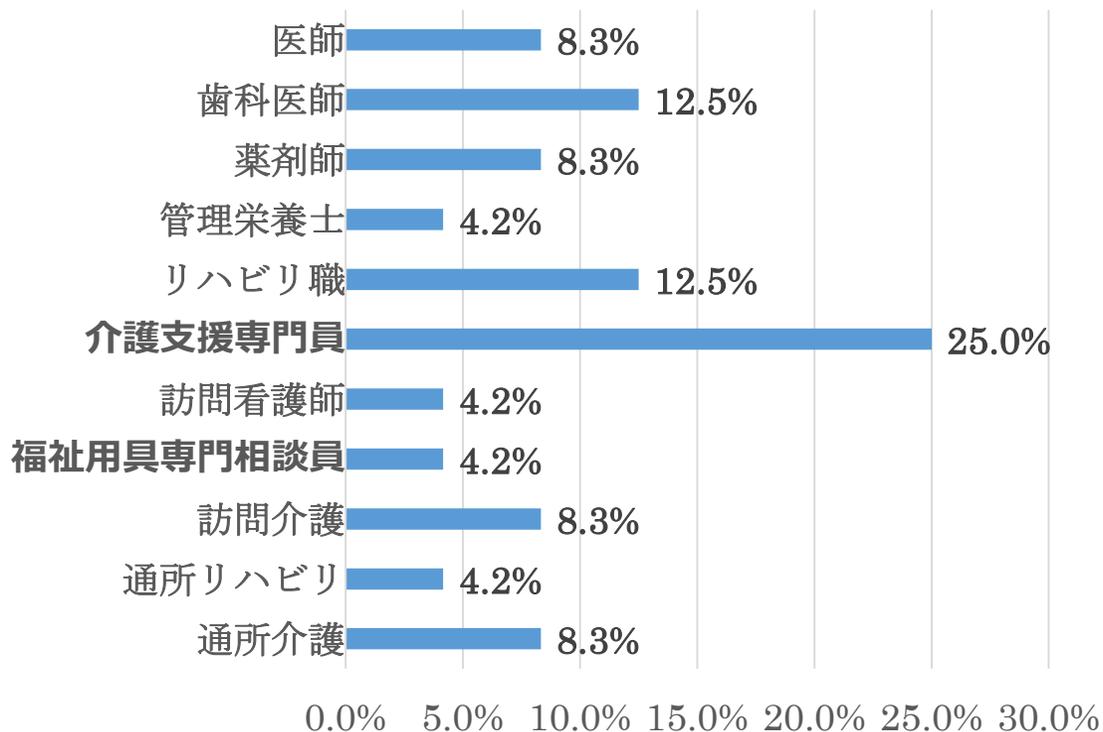
地域連携連絡票が多職種との情報共有に役立っていることが分かった。

普段関わることの少ない職種の方とも話をするすることで、それぞれの専門性や強みを知ることができた。

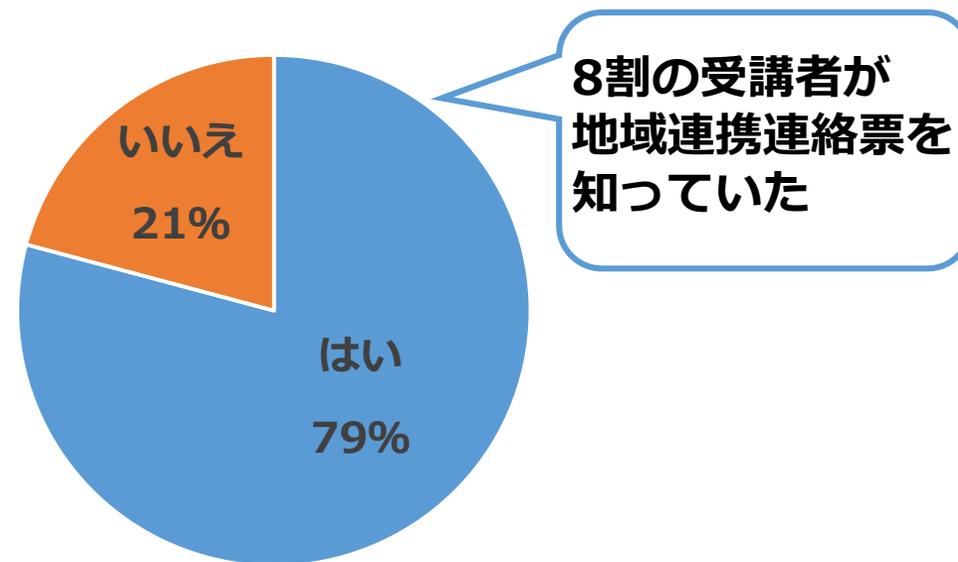
平成30年度の部会活動 評価

3回目研修会終了後のアンケート結果 (平成30年12月 回答24名)

参加者の内訳・割合



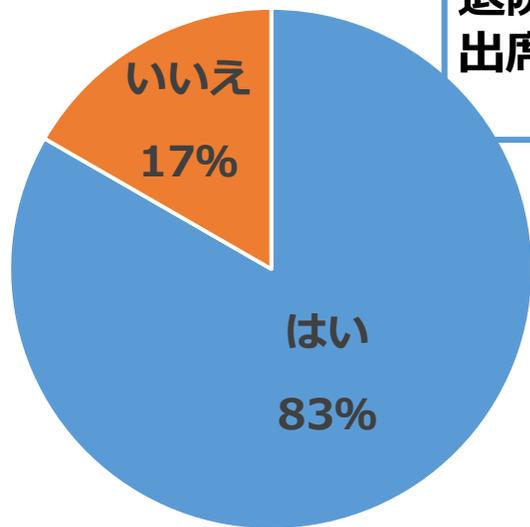
1. 地域連携連絡票を知っていましたか。



平成30年度の部会活動 評価

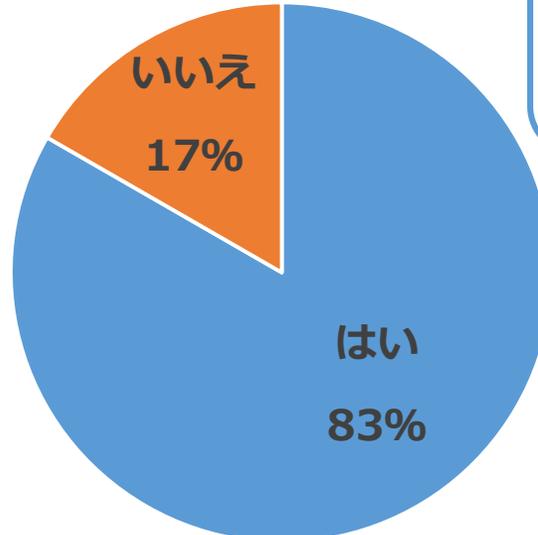
3回目研修会終了後のアンケート結果 (平成30年12月 回答24名)

2. 退院前カンファレンスに出席したことがありますか。



8割の受講者が
退院前カンファレンスに
出席したことがあった

3. サービス担当者会議に出席したことがありますか。

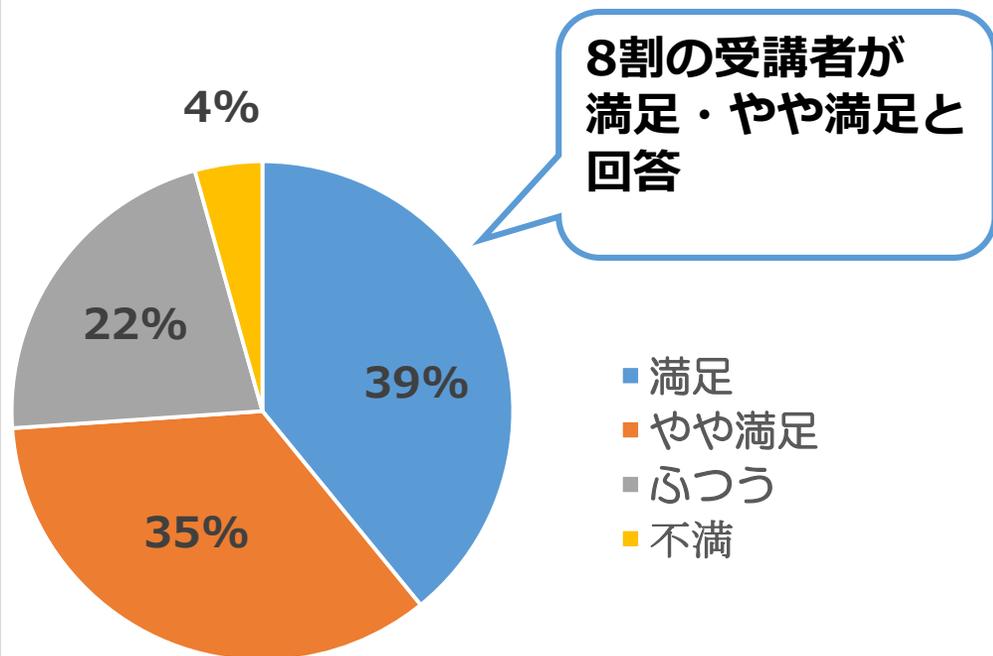


8割の受講者が
サービス担当者会議に
出席したことがあった

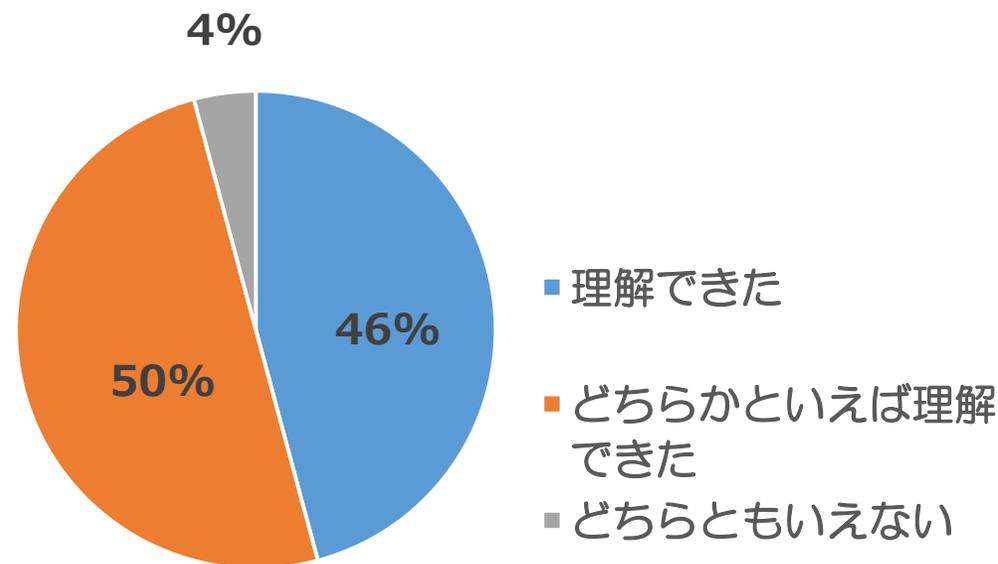
平成30年度の部会活動 評価

3回目研修会終了後のアンケート結果 (平成30年12月 回答24名)

4. 研修会の満足度についてお聞かせください。



5. 地域連携連絡票の内容・活用方法について理解することができましたか。



平成30年度の部会活動 評価まとめ

- 1 新たに多職種リーダー30名を養成することができた
- 2 多職種に地域連携連絡票の活用方法を概ね理解してもらうことができた
- 3 研修後、リーダーとして、地域連携連絡票を活用しているか、リーダーとしての役割の実施状況を確認する必要がある

平成31年度への課題・活動内容

◆平成31年度への課題

- 1 多職種リーダー(研修修了者)の活用方法
- 2 他部会と連携した活動
- 3 地域連携連絡票の日常的な活用方法
- 4 地域連携連絡票の作成方法(ケアマネジャー以外の職種の関わり)

◆平成31年度の活動内容

- 1 研修会を開催し、新たな多職種のリーダーを30名養成する
- 2 広く多職種が連携を図る機会を設定する